



KmkgmolSacd

日本学術会議 公開シンポジウム

「新しい国際単位系 (SI) 重さ、電気、温度、 そして時間の計測と私たちの暮らし」

主催：日本学術会議 物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会、化学委員会 IUPAC 分科会

共催：一般社団法人 日本物理学会（予定）、公益社団法人 日本化学会、
国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター

日時：平成30年12月2日（日）13:00～17:00

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7-22-34 東京メトロ千代田線乃木坂駅 5 番出口すぐ）
<http://www.scj.go.jp/ja/other/info.html>

開催趣旨： 私たちが使っている kg、秒、温度などの単位は、国際度量衡総会において、国際的な取り決めによって決められています。来年五月からこの単位についての取り決めを大きく変更する改定が決定される予定です。新しく施行される国際単位系は、唯一人工物によって定義されているキログラムを、自然界を支配するいくつかの「定数」を使って定義します。

人間が恣意的に決めた単位は、科学技術の発展とともに、自然の中にある原理を使ったものに置き換えられてきましたが、今回の改定でこの取り組みがとうとう完成します。日本学術会議では、この機会に、単位の制定の背景にある、自然の原理や科学技術の発展、今後の進展などを広く展望するシンポジウムを開催します。学生、研究者、教育関係者、技術者等などのご来聴を歓迎します。

13:00-13:20	「標準改定の歴史、今回の改定と今後」 臼田 孝（国立研究開発法人 産総研総合研究所 計量標準総合センター 総合センター長、国際度量衡委員）
13:20-13:50	「国際単位系 (SI) の定義改定が拓く新しい計測技術」 藤井 賢一（国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 首席研究員、CODATA 委員）
13:50-14:20	「新元素の名前と化学記号の決定および原子量の新たな表記」 巽 和行（名古屋大学 名誉教授、日本学術会議連携会員、化学委員会 IUPAC 分科会）
14:20-14:50	「新単位系を支え、新単位系に支えられる物性物理学」 勝本 信吾（東京大学 物性研究所 教授、物理学会理事）
14:50-15:00	質疑応答
15:00-15:15	休憩
15:15-15:45	「新しい時間をつくる、使う」 香取 秀俊（東京大学大学院 工学系研究科物理工学専攻 教授、理化学研究所 香取量子計測研究室 主任研究員）
15:45-16:15	「精密時空時計測が拓く重力波天文学」 三代木 伸二（東京大学 宇宙線研究所 准教授）
16:15-16:45	「長さの定義改定がもたらした長さ計測の進展」 美濃島 薫（電気通信大学 情報理工学研究所基盤理工学専攻 教授、日本学術会議連携会員、総合工学委員会委員）
16:45-16:55	質疑応答
16:55-17:00	閉会挨拶 野尻 美保子（高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 教授、日本学術会議第三部会員、物理学委員会・総合工学委員会合同 IUPAP 分科会委員長）

問い合わせ先：国立研究開発法人 産業技術総合研究所 計量標準総合センター 計量標準普及センター 計量標準調査室
TEL：029-861-4346

参加申し込み用 URL（近日公開予定）：https://www.nmij.jp/public/event/2018/scj-symposium_2018/